公益財団法人愛知教育文化振興会

教育と文化

No.122
令和2年3月

Contents

2　巻頭言
4　三河の文化を訪ねて
6　特 集　体験活動参加者の声
8　教育随想
9　教室の窓辺
10　絵画コンクール
12　かきぞめコンクール
14　優秀論文入賞者の紹介
15　特色ある教育活動
16　文振だより

二川宿本陣まつり（「三河の文化を訪ねて」より）

巻頭言

三河の教育文化を考える

「授業研究」、それは実践から丁寧に言葉を紡ぐこと

公益財団法人愛知教育文化振興会副理事長　髙　須　亮　平

一　教育文化

教育文化について問うのは私くらいかもしませんが、本誌巻頭としてはどうでしょうか。まず、教育文化の「教育」と言えば文字通り「教え育てる」ことで、ある人間を望ましい状態にするために心と体の両面に働きかけることであり、その人の能力を引き出すことと言われます。学校では学習指導要領の「生きる力」の育成、すなわち知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養に具現され、そのような姿を目指した営みとなります。

次に「文化」と言えばラテン語cultura（耕す）から派生した「洗練したものにする」という意味になります。それは、ある思考や信念に基づいた活動様式であり、ある一定の組織に共有される価値観のように捉えられます。

そうすると、「教育文化」とは教育に関わるある種の思考や信念に基づく活動様式、ある一定の組織に共有される価値観になります。そこには、教師による計画的・意図的な働きかけが求められます。

二　三河の教育とその教育文化

まず、三河の教育とは何かと問われれば、その歴史は大正時代に遡り、画一的で型にはめたような教育から転換し、子どもの経験、関心や感動を中心に、より自由で生き生きとした教育（新教育運動）に始まったと思われます。そして、三河の地で現在まで脈々と構築され、いつの間にか伝統になり風土となっているようです。現在では、子どもの側に立った教材開発であったり、子どもの意識を大切にした単元・授業展開を工夫したりする考えを基にした営みとなってきています。

それを洗練させる活動様式・価値観が三河の教育文化となります。その具体の一つとしてあげられるのが「授業研究」です。その中では授業記録や学習記録を基にして子どもが学びの対象に迫る姿を探ったり、それを座席表に位置付けて授業を構想したり、またそれらから子どもの変容を捉えたりするなどの手立てが考えられました。ただ、これは授業研究とは何かを答えていません。そうすると、教育文化としての授業研究、すなわち授業研究のあるべき姿を明らかにする必要があります。

三　教育文化としての授業研究

ここで、授業研究への私見を述べる前に、まず確認したいことは、ただ無前提に授業研究らしきことをやることがよいと思いがちですが、それは間違いであることです。授業研究の元々の意味は、自分の授業を改善し、子どもの学びの質を向上させるためのものです。しかし、残念ながら、研究によって著しく授業がよくなった、子どもの学びの質が向上したと実感している教師はどれ程いるでしょうか。紀要が立派でなくても、斬新な提案でなくても、日常の授業がよくなっていれば、それが実質的に立派な授業研究と思うのです。

それでは、授業研究のあるべき姿とは何かを問えば、それは、授業をよくしよう、子どもの学びの質を向上させようとすることを出発点にすべきでしょう。日常の授業で様々な工夫をした結果、「こうやればうまくいきそうだ」「ここがポイン

トらしい」と僅かでも見えてくればしめたものです。そうなれば、その辺りを焦点化して繰り返し試してみます。それでうまくいけば、その背後に確かな「授業づくり」の原理が潜んでいるのです。そして、そこでつかんだ確かな実践的感覚を、最もうまく言い表す「言葉」を探っていきます。

そのような作業は、うまくいった事例について、授業の中で教師がとった行動なり、教室に現れた子どもの事実という具体の詳細を、同僚と共有するところから明らかにできます。仮にうまくいったと皆が認めた授業（事実）でも、どこがどのような意味でよかったのか、人により違うことがあるので互いに確認し合うことが必要です。それ以前に、よい授業、よい学びについて同僚と意見が一致しないかもしれません。もちろん無理に合わせる必要はなく、なぜ意見が一致しないのかについて率直に意見交換することが大切です。

次に、その事例を成功に導いたものは何かを解明します。まだ、この段階では理論的な言葉にするのではなく、あくまでもその具体に即して可能な解釈や表現を稚拙でもよいので、実感の持てる表現でできるだけたくさん出し合いたいものです。

中には、表現がピンと来ないこともあります。その場合には曖昧に流すのではなく、なぜその言葉なのかをしっかりと吟味します。それにより自分が捉えられていなかった感覚を、同僚から学ぶことができます。そんなやりとりを積み重ねるうちに、あるとき誰かが皆の実感にぴったりの言葉を発見することもあります。それは、まさに皆で丁寧に話し合いに取り組んだ賜と言えるでしょう。

いい言葉を皆で発見したときは、実にうれしいものです。しかし、作業はこれで終わりではなく、本当にその言葉で各自が抱いている実感を過不足なく表現できているかを厳密に検証することが求められます。検証と言っても、客観的な手続きなどは決まっていないので、新たな授業実践でも各自の主観的な授業の振り返りでもできます。

ここで重要なのは、各自の授業についての実感なのです。その実感を言葉にできるか常に振り返りながら議論します。実感と言葉とを突き合わせた結果、感覚のずれがあれば言葉遊びに陥ります。そのようなときは、言葉を再考し新たな言葉を求めて実践の具体や各自の実感とじっくりと向き合うことです。そのようにして、うまくいっている実践の事実の背後にあるものを、そこでの実感を大切にした振り返りにより、各自が納得のいく言葉として表現していきます。そのことが授業実践から丁寧に言葉を紡ぐことになります。

その営みは、平成十年頃に始まる附属小学校の経験主義のカリキュラムづくりに思い起こされます。それまでの授業実践での子どもの姿から、ものの見方・考え方・感じ方を新たにする「価値意識の更新」という言葉が紡ぎ上げられ、それが共通の求める姿となりました。その言葉はとても意味深く、まさに新学習指導要領の「深い学び」に通じるものです。そして、子どもがその価値意識を更新する過程で、それまでの学びの経験を効果的に働かせている事実を明らかにすることにより、価値意識を更新する要因・背景を確かにしていったのでした。さらに子どもの経験を位置付けるカリキュラムの精度を高めるため実践を重ね、子どもの経験やそのつながりを明確にする教師支援を言葉として紡いでいったのでした。それらは日常の授業をよりよくし、子どもの学びの質を向上させることにつながりました。

このように、丁寧な授業実践の事実と向き合うことから紡ぎ上げた言葉こそが、実は最も真実味のある教育の理論であり、その営みこそが、学校現場における「授業研究」の本体であると思うのです。

四　三河の教育文化に吹く風

三河（現・西尾市寺津町）出身の英文学者であり言語学者である外山滋比古氏は、著書『三河の風』の中でこのように述べています。

「三河の人間は大きな独創はできなくても、生活に近いところで、新しいモノ、新しいコトを創り出す工夫に優れているように思われる。案外、独創性が高い。ものまねをよしとしないところは、異端といわれるかもしれない。」

「力もなく威張る人間が好きになれないのは三河の風である。どうもバカ正直にできている…。」

「三河の風はゆるやか。力をもつようになるのに時間がかかる。」

なぜ三河で教育文化としての授業研究が愚直に議論されるのでしょうか。私たちの教育の営みにも「三河の風」が爽やかに吹いているようです。

二川宿を彩る街道風俗絵巻

二川宿本陣まつり 大名行列

豊橋市立二川南小学校長　神藤晴康

二川地区の活性化を図るため住民全体で繰り広げられる伝統行事。その舞台となる二川宿は、東海道筋で二か所しか残されていない本陣を有している。

二川宿本陣資料館

二川宿本陣まつり 大名行列

二川宿本陣まつり「大名行列」は、本陣資料館の開館した平成3年から二川地域の活性化を図るため毎年開催され、来年度には30回を迎える伝統ある行事である。今年度は11月3日に華やかに開催された。晴天に恵まれ、2万3千人という多くの観客を迎えた。これは、吉田藩主で名君と言われた松平伊豆守信明の大名行列を、旧東海道二川宿一帯で再現するものである。松平信明は、江戸時代中期の天明8（1788）年に老中となり、松平定信の寛政の改革を支えた。一方で将軍家斉の贅沢なふるまいを戒め、大名や武士の規律を正したという逸話が伝えられている。また、ロシア使節ラクスマンが根室に来航した多難な時期に老中首座を引き継ぎ、幕府のかじ取りを行ったことでも知られている。

本来の大名行列は人数制限があり、5万石～10万石の大名は167人と決められていた（吉田藩は7万石）。しかし、現在の『大名行列』は、公募で選出された雅姫・琴姫、6年生児童が扮する若殿や妹姫、近習・侍女と二川地区の住民による100人余りの本隊、近隣小学校の6年生児童による鼓笛隊や手踊り、奴踊りを交えた250名を超える人が参加する。より華やかな江戸時代の風物絵巻とするため、奥方・姫・侍女・腰元などの女性も参加する。

また、行列の披露だけでなく旧東海道沿いのあちこちで和太鼓や津軽三味線の演奏、梯子乗りの披露などの「観る&聴くイベント」、うまいもの販売や骨董市などの「食べる&買うイベント」といった様々な催しも行われ、二川地区全体で盛り上げている。

これら一連の大イベントは、実行委員会を中心とする約500人ものスタッフに支えられている。なかでも二川中学校の2年生は、行列・ステージイベントへの参加、「本陣茶屋」の企画運営、「ボランティアガイド」に取り組み、貴重な体験をしている。学校側も生徒たちが自分の住んでいる地域に対して愛着をもち、やがて二川に帰ってきたいという思いを強くもつことが重要であると考え、ESDの取り組みの柱の一つに位置づけている。

二川宿 宿場としての成り立ち

二川宿は江戸日本橋から数えて33番目、遠江国より三河国に入って最初の宿場であった。慶長6（1601）年、

徳川家康が東海道に宿場を設置した当初からの宿と言われており、当初は東西に12町（1.3㎞）ほど離れた二川村と大岩村の2村で1宿分の役目を果たしていた。しかし、離れていたため不都合で、参勤交代などで交通量が増えると行き詰ってしまった。そこで、正保元（1644）年に両村は現在地に移転し、二川と加宿大岩からなる一続きの宿場町となった。

宿場町の面影

計画的に建設された二川宿は、間口が狭く奥行きの長い宿場町特有の宅地割が行われ、街道に沿って家々が軒を連ねていた。また、寺院や神社は比較的土地の高いまち並みの北側につくられた。戦災の被害を受けなかったため、東海道筋で2か所しか残されていない本陣の建物と江戸時代の宅地割が宿場町の面影を残す。

本陣･上段の間

大名の宿　二川宿本陣

昭和60年、旧本陣のご当主馬場八平三氏は、全国的にも貴重な歴史的建造物である本陣遺構の永久保存と活用を願って屋敷地を豊橋市に寄付した。豊橋市では、これを受けて昭和62年に二川宿本陣を市史跡に指定し、改修復原工事に着手し、本陣建物が最も整備されていた江戸時代末期の姿を再現した。明治以降、建物は大きく改造されたが、残された間取り図や木材の痕跡調査などにより、大名・公家が宿泊した頃の姿に復原した。同時に二川宿ならびに近世の交通に関する資料を展示する「二川宿本陣資料館」を開館した。

商家「駒屋」外観

庶民の宿　旅籠屋「清明屋」

本陣東隣に隣接する旅籠屋「清明屋」は平成12年に倉橋家より寄付された。旅籠屋とは、江戸時代に盛んになった1泊2食付きの宿屋のことである。本陣の東隣に位置することから、大名行列が本陣に宿泊する際に、上級武士の宿泊所としても利用された。改修復原工事によって主屋・繋ぎの間、奥座敷などが再現され、公開されている。

商家「駒屋」

商家「駒屋」は、主屋・土蔵など8棟の建物からなり、二川宿で商家を営むかたわら、問屋役や名主などを勤めた田村家の遺構である。豊橋市内に数少ない江戸時代の建造物で、当時の商家の一般的な形式を良く残していることから、平成15年に市指定有形文化財となり、すべての建物について江戸時代から大正期の姿に改修復原された。商家「駒屋」の公開により、二川宿は本陣・旅籠屋・商家の3か所を見学できる日本で唯一の宿場町となった。

都市景観大賞受賞

二川宿では、残された本陣、旅籠屋、商家を景観の核として無理のない景観形成基準を官民で共有している。長年継続して取り組んできたことにより、旧街道のまち並み景観や瀬古道の路地空間が再生されてきた。一方、住民団体やNPOも8団体あり、地区の住民全体で取り組む「大名行列」や「灯籠で飾ろう二川宿」等のイベント、さらに、つるし飾りや一輪挿し等が歴史的な街並みにアクセントを与えている。こうした行政や住民団体、大学がそれぞれの立場や専門性を生かした旧宿場の風情ある景観形成が評価され、平成28年度には10団体共同で都市景観大賞の表彰を受けた。

【二川宿本陣資料館】 月曜日休館
豊橋市二川町字中町65番地
TEL0532-41-8580

取材協力･資料提供　　二川宿本陣資料館

ウォッチング

参加者の声

6回計画し、5回実施しました。天候の状況によ
ウォッチング」は中止にしました。ほんの一部
自然体験活動の魅力を感じてください。

めざせ　虫博士（6月30日）

少年自然の家（岡崎市）

　虫をたくさんつかまえることができて，とても楽しかった。モノサシトンボがきれいだった。

　最近は自然の中に出る機会が少なく，子どもとも触れ合う機会も少ないように感じる。親子で話しながら虫をつかまえるのは，会話も弾み，たいへん有意義だった。

　虫をいっぱいさわれたし，トンボはしっぽから持つことがわかった。

　講義が堅苦しくなく，でも専門的なところもあって，とても楽しんで聞けた。

　先生のお話がおもしろくて，正直，父の代行だったが，子どもと一緒にトンボ博士になれた気がした。

干潟の鳥ウォッチング（9月28日）

緑が浜公園（田原市）

　いろいろな鳥が見られて楽しかった。白い鳥がきれいだった。

　今回で3回目の参加になり，参加するごとに子どもが積極的になっていくことをとてもうれしく思った。

　干潟にはたくさんの生き物がいて，中でもカニなどを食べる鳥，その鳥を食べるタカのような猛禽類のいることがわかった。

　潮干狩りもしたことがなかったので，お尻まで泥だらけになりながら探す姿がとてもいきいきしていた。インドア派の親なので，先生の知識やボランティアの学生さんの若々しい反応も小学生の娘には新鮮なようだった。

ネイチャーウ

令和元年度は、親子で楽しむ自然体験活動を
り、10月19日に予定していた「里山の生き物
ですが、参加された皆さんの声を紹介します。

川の生き物調べ（8月31日）

少年自然の家（岡崎市）

一見何もいそうにない泥の中から小さい生物が発見できるということが，とても楽しい。

ヨシノボリやマドジョウなど，ふだん見ることのないたくさんの生き物をつかまえることができ、とても貴重な体験だった。虫など触れない子だったが，興味深く観察していた。ヤゴにもたくさんの種類があることを知った。とてもよい機会だった。

化石を発掘しよう！（11月30日）

伊古部海岸（豊橋市）

大きな貝や葉っぱの化石を自分たちでけずって見つけることができたので，とてもうれしかった。

いつの地層の化石か，どのように化石ができたのか，先生の説明もとても分かりやすく，大変有意義だった。自然に触れ合う貴重な機会が少なくなり，今回のような体験が親子ともに大切だと改めて感じた。

しょうらい化石の博士になりたい。

星空ウォッチング（1月25日）

少年自然の家（岡崎市）

学校でちょうどオリオン座の勉強をしているので，いろいろなことがわかってよかった。

星が見えないのは残念でしたが，藤井先生の楽しいお話が聞けてとてもよかった。家族みんなで，天気の良い日に見てみたい。ふたご座流星群や2035.9.2や2041.10.25の空も絶対に見てみたい。

「バラ星雲」など，知らない星雲の話が聞けてよかった。

この道より 我を生かす道なし

卓球　元世界選手権 チャンピオン
徳永 尚子（旧姓 深津）

Profile　とくなが　なおこ

岡崎市出身
S35　愛知県中学校卓球大会優勝
S37　全国高校卓球選手権大会 シングルス優勝
　　全日本ジュニア大会シングルス優勝
S39　北京オープン大会シングルス優勝
　　全日本学生卓球選手権大会シングルス優勝
S40　第28回世界卓球選手権大会シングルス優勝（ユーゴスラビア　リュブリアナ大会）
　　アジア大会4種目優勝　バンコク
S42　第29回世界卓球選手権大会　団体優勝（スウェーデン　ストックホルム）
S43「料亭二蝶」女将
H５　東四国国体　二部優勝
H18　深津尚子杯　西三河中学校卓球大会開催

今では遠い昔の話になりますが、私は卓球に夢中になっていた時期があります。１９６５年、大学２年生だった私は、卓球の世界選手権リュブリャナ大会で優勝しました。カット打ちを克服するために、「腕が折れちゃってもいい」と思うほど練習しました。できれば団体優勝もして、それで引退と決めていた私でしたが、優勝できず、２年後のストックホルム大会での団体優勝を目指して続けることを決めました。

城殿先生との出会い

私は、岡崎市立奥殿小学校の出身です。紡績業を営む家庭に生まれました。７人兄弟の末っ子で、多くの女子工場従業員にも囲まれた、にぎやかな環境で育ちました。どちらかといえば、おとなしい子であったようです。

小学校に隣接して、香山中学校がありました。香山中学校は３学年合わせて５クラスほどの小さな学校でしたが、体育館には６台の卓球台が並んでいました。県大会で準優勝という成績を誇る学校で、一番人気の部活動が卓球部でした。

小学校のとき、下校時にこの体育館をのぞくのが私の日課でした。先輩たちの美しいフォーム、楽しげなラリーに私はあこがれました。小学６年生のころには「中学生になったら卓球部に入る」と、心を決めていました。

中学校に入学すると、私はすぐに卓球部に入部しました。やっと自分もボールを打つことができるという喜びでいっぱいでした。その時の指導者が城殿輝雄先生でした。

初めての試合で緊張する私たちに、城殿先生は、「大丈夫。試合をすれば必ず勝てる」と励ましてくださり、その通り勝つことができました。きっとこれまでの練習の確かさを感じておられたのだと思います。

その後、桜ケ丘高校、慶應義塾大学へと進学し、卓球を続けました。そのときに経験した、厳しい練習、挫折、達成した喜びなどから学んだことは数限りなくあります。その一つ一つが今の私の貴重な財産です。必死で立ち向かっていたからこそ経験できる貴重な体験でした。

現役引退、料亭女将へ

ストックホルム大会で、女子団体優勝の目標を果たすと、私は引退を決めました。帰国後、すぐに下宿を引き払って実家へ戻りました。ラケット、ユニフォーム、すべてきれいにしまうことにしました。

その秋に結婚。高松の料亭「二蝶」の女将になりました。料亭の女将は、生半可な気持ちではできません。20年近くラケットを握ることなく、女将の仕事に邁進しました。しかし、もと世界チャンピオンが女将の料亭ということで、仕事とつながることもありました。とりわけ、中国からのお客様がいらっしゃったときは、格別な印象をもっていただきました。

「なぜもっと続けないのか」と聞かれることもあります。やるからには、全力でという気持ちでしたから、私にはその自信が湧かなかったのです。負けて言い訳をするような試合はしたくない、そんないいかげんな気持ちでは選手でいる資格がないと考えていたからです。

そんな私でしたが、卓球とのつながりが切れたわけではありません。地元開催の国体のころから練習に誘われるようになり、平成５年の東四国国体では香川県の代表として、２部で優勝ということもありました。講演を頼まれることもあります。

今では、自分を育ててくれた卓球への感謝の気持ち、恩返しの気持ちで関われるようになれました。

この道一筋、その気持ちが私の人生の指針です。

教室の窓辺

つなぐ　かがやく　大清水
～努力し続ければ　夢は叶う～

豊橋市立大清水小学校
教諭　尾川　あゆ美

私は、教師になって6年間ずっと、「努力し続ければ　夢は叶う」と、学級の子どもたちに伝え続けてきました。子どもたちは無限の可能性をもち、いつも私の想像以上のパワーを発揮してくれます。最大限に努力した後の子どもたちの喜びや達成感は特別のものです。しかし、必ずしも達成できる目標ばかりではありません。大切なのは、仲間とともに努力し続けてきた過程です。その過程を教師が全力でサポートしていくこと、更にがんばりを全力で認めることで、その経験が子どもたちの自己肯定感を高め、「生きる力」につながるのではないかと考えます。

昨年度は、最高学年の6年生を担任しました。運動会の組体操で、大清水小伝統の集団行動や体操演技を引き継ごうと一生懸命に練習に取り組み、多くの人に感動を届けることができました。そんな中、「来年度は運動会の組体操がなくなるかも…」という問題に直面しました。しかし、「組体操でしか味わえない達成感や感動を、下級生にも味わってほしい」という子どもたちの強い思いを受け、体育主任でもある私は、組体操の基礎になる体育のマット運動の楽しさを、これまで以上に全学年に広げたいと考えました。

そして、大清水小で初めての、6年生によるマット運動発表会「ＭＴＯ（マットオリンピック）」を企画し、実践しました。ＭＴＯでは、6年生が全校から大きな拍手を受けました。辛いことも楽しいことも、同じ時間を共有してきたからこそ、子どもたち同士の絆も強まりました。達成感に満ち溢れた子どもたちの姿は一生忘れられません。

今年度は、5年生を担任しています。学級開きをしてすぐに、子どもたちが、「今年もＭＴＯやるの？」「6年生がやっていてかっこよかった。感動したから私たちもやってみたい」と言い出しました。そこで、学芸会でのマット・跳び箱運動発表「夢りんピック２０１９」を計画しました。学芸会当日は、「辛いこともあったけれど、がんばってきてよかった」という声が聞かれました。昨年度の6年生のがんばりが全校の子どもたちの心を動かし、6年生が残した組体操とＭＴＯを、今年度の5年生が「夢りんピック」として大清水小学校につないだことをうれしく思いました。

私が目ざす教室は、厳しく指導されることもあるけれど、優しさ、温かさの溢れる教室。大きな声で笑い合う中で、真剣さ、前向きさが溢れる教室。何事にも全力で挑戦する、やる気溢れる教室です。私は、子どもたちを信頼し、全力で子どもたちと向き合うことを大切にしています。

そして、何よりも子どもたちには感謝の気持ちでいっぱいです。「努力し続ければ　夢は叶う」と、これからも大好きな子どもたちとともに、大清水小学校をつないでいきます。子どもたちがこれからも、もっともっと輝きますように。

学芸会「夢りんピック2019」大成功！

「学校大好き」の第一歩は「先生大好き」です。5年担任、体育主任である尾川先生は信頼される人気者の教師です。熱心で温かい学級経営や実践が学級をつないでいるのはもちろんのこと、学年をつなぎ、学校をつなぎ、地域をもつないでいます。

「挑戦したい！」子どもたちの思い、「楽しい！」魅力あふれる教材、「あきらめない！」努力に対する粘り強い支援、そして、「できたね！」と、ともに喜ぶ教職員の取り組みが、笑顔輝く大清水小学校の子どもたちを育んでいます。

（校長　北沢　陽子）

令和元年度

みかわ彩発見 絵画コンクール

２年目となりました。本年度は、春夏の部１１９５点、秋冬の部４７１点の応募がありました。応募してくださった皆さんにお礼申し上げます。

１月31日・２月１日に作品展、２日(日)に表彰式を開催しました。最優秀賞入賞者とその作品、優秀賞入賞者を紹介します。これらの作品の一部は、令和２年度版の『夏、冬休み日誌』の表紙絵として掲載します。

また、佳作・奨励賞を含めた入賞者一覧は、ホームページに掲載しています。

表彰式記念撮影（上：春・夏　下：秋・冬）

最優秀賞入賞者及び作品（春・夏の部）

どだくさんとれたよ!!
あさり!!　かにもいたよ

田原・童浦小学校
１年　藤 城　　映

味噌六太鼓

岡崎・梅園小学校
２年　永 見　　晴

生き物いっぱい矢作川

豊田・駒場小学校
３年　手 嶌　美 緒

家族できれいな花火を見たよ。

豊橋・東田小学校
４年　大 山　結 加

おしし　よいこら

西尾・西尾小学校
５年　中 村　美 華

一色大提灯

西尾・鶴城小学校
６年　清 水　か ほ

優秀賞入賞者（春・夏の部）

1年	2年	3年	4年	5年	6年
西尾・西尾小 杉山　明里	豊田・浄水小 杉村　友花	安城・桜林小 二村　旬太朗	岡崎・広幡小 山本　陽加利	刈谷・住吉小 武井　悠莉	西尾・幡豆小 倉谷　友希
豊橋・吉田方小 小川　有宇	安城・桜林小 黒柳　　陽	豊橋・旭小 竹内　鴻平	刈谷・衣浦小 宝野　一真	豊橋・向山小 松本　らん	みよし・黒笹小 竹中　大翔

講　評

三河教育研究会造形部会長
豊橋市立谷川小学校長　鈴木　良和

2回目を迎えた「みかわ彩発見　絵画コンクール」。今年も春・夏の部、秋・冬の部合わせて1666点もの作品応募がありました。

集まった作品は「くらし」「まつり」「ふるさと」の3つのテーマから一つを選び、子どもたちが描きたい場面をのびのびと表現していました。柔軟な発想と子どもらしい自由な線や色でとらえられた作品は、どれも独自のよさがあり審査に悩みました。受賞されたみなさん、おめでとうございます。

地域性や季節感が感じられる作品は、描いた子どもたちはもちろん、見る人たちにも改めてふるさと三河を「再(彩)発見」する機会になったと思います。たくさんのご応募、ありがとうございました。

最優秀賞入賞者及び作品（秋・冬の部）

あめ細工

愛教大・附属岡崎小学校
1年　林　　潤

初げり

豊橋・東田小学校
2年　大山　航生

駒場の秋まつり

豊田・駒場小学校
3年　手嶌　美緒

豊橋鬼祭り

豊橋・鷹丘小学校
4年　松井　映鷹

祭りの笛

安城・明和小学校
5年　江坂　聡悟

海中渡御

蒲郡・三谷小学校
6年　平野　斗琶

優秀賞入賞者（秋・冬の部）

1年	2年	3年	4年	5年	6年
岡崎・井田小 檀浦　志帆	岡崎・井田小 田形　琉人	愛教大・附属岡崎小 貝沼　姫和	刈谷・小高原小 川岸　姫依	豊田・前山小 山崎　愛美	豊橋・二川南小 牧野　碧海
田原・童浦小 秋野　玖水	安城・桜林小 小西　真矢	田原・童浦小 鈴木　晴海	豊橋・東田小 大山　結加	新城・新城小 生田　悠莉	豊川・御津北部小 稲田　　葵

令和元年度

かきぞめコンクール

「かきぞめ手本」を題材にした第9回かきぞめコンクールを行いました。三河地区から小学生の部2471点、中学生の部376点、計2847点の応募がありました。

書家・編集委員の先生方によって慎重に審査され、最優秀賞9点、優秀賞18点、佳作63点、奨励賞180点が選ばれました。奨励賞を含む入賞者一覧はホームページに掲載しています。

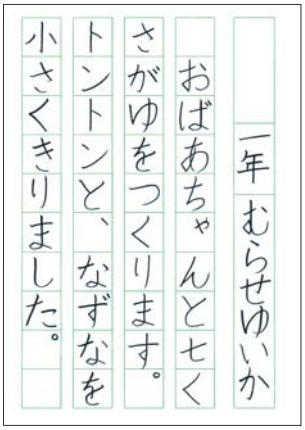
絵画コンクールと同日に作品展と表彰式を開催しました。

表彰式記念撮影

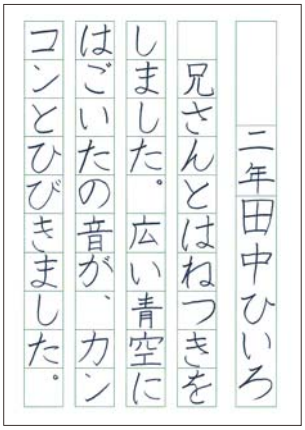
最優秀作品の紹介

本年度のかきぞめコンクールで、最優秀賞を受賞された9名のみなさんの作品を紹介します。

〔小学生の部〕



豊田・野見小学校
一年　村瀬結香



岡崎・六名小学校
二年　田中陽彩

〔中学生の部〕

豊田・東山小学校
三年　大嶋千悠

豊田・高嶺小学校
四年　荒牧皇輝

豊田・寺部小学校
五年　澤田彩花

豊田・駒場小学校
六年　山田柊

豊田・崇化館中学校
一年　椎葉芽生

安城・東山中学校
二年　中原愛彩

安城・東山中学校
三年　久田藍奈

講　評

「かきぞめ手本」編集委員長
豊田市立追分小学校長　柴田みどり

応募された作品は、子どもたちの真剣に書く姿や緊張感を伝えていました。そして、その子らしさにあふれていました。

1、2年生の硬筆は、丁寧に書き始め、書き終わりまで集中し、濃くしっかり書けた作品が目を引きました。3年生以上では、素直な筆さばきでのびのび書いた作品、左右のバランスや平仮名の筆回しに気を付けて書いた作品に感心しました。特に中学生の行書は、つながりのある運筆を意識した甲乙つけがたい作品が多くありました。

自分と向き合い、何度も何度も練習したことが、皆さんを高めています。これからも、書くことを楽しみの一つとして、自分にしか書けない作品を目指し、挑戦し続けていってください。

令和元年度かきぞめコンクール入賞者（最優秀賞・優秀賞・佳作）一覧

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年
最優秀賞	豊田・野見小 村瀬　結香	岡崎・六名小 田中　陽彩	豊田・東山小 大嶋　千悠	豊田・高嶺小 荒牧　皇輝	豊田・寺部小 澤田　彩花	豊田・駒場小 山田　　柊	豊田・崇化館中 椎葉　芽生	安城・東山中 中原　愛彩	安城・東山中 久田　藍奈
優秀賞	豊田・大林小 渡辺　由真	豊田・中山小 伊藤　颯汰	豊田・駒場小 山田　　晴	みよし・天王小 坂井　来光	豊田・梅坪小 小野　　爽	岡崎・三島小 判治　徹哉	豊田・逢妻中 大平　愛美	安城・東山中 神谷　麻輝	安城・東山中 石田　りさ
	西尾・矢田小 田口　尚磨	蒲郡・蒲郡北部小 宇田唯千花	安城・安城北部小 今井　花音	幸田・中央小 髙橋　由芽	安城・里町小 米津　　基	安城・里町小 浦野はづき	西尾・一色中 長田　昇大	みよし・北中 野口　瑞葵	安城・東山中 米津　　和
佳　作	豊田・朝日小 吉田　　旬	豊田・寺部小 柴田　栞歩	岡崎・美合小 鎌田未奈萌	豊田・寺部小 柴田　蒼佑	岡崎・井田小 長友　栞南	豊田・挙母小 宮川　万結	豊田・崇化館中 浦浜恵里華	碧南・新川中 犬塚　琉理	豊田・高橋中 井深　　萌
	豊田・大林小 後藤　真歩	豊田・童子山小 陸　けいと	碧南・新川小 犬塚　琉迦	安城・安城北部小 坂口　蒼依	刈谷・富士松南小 高田　小綸	豊田・朝日小 中村　　栞	豊田・上郷中 荒牧　李來	豊田・崇化館中 村松　真依	豊田・高橋中 村山　絢香
	豊田・駒場小 手嶌　華菜	安城・桜井小 伊藤　絵天	碧南・新川小 岡本　結衣	西尾・一色南部小 浅井　咲季	豊田・大林小 竹花　早耶香	豊田・畝部小 竹知　舞帆	豊田・高橋中 新開　瑠奈	豊田・高岡中 横井　杏実	豊田・高橋中 山中菜月美
	西尾・平坂小 伊東　遼佑	西尾・鶴城小 論田　悠里	豊田・朝日小 水野　遥香	西尾・吉田小 平山　凛香	幸田・深溝小 小野良有芽	豊田・前山小 鷲野　眞歩	豊田・高橋中 古井　瑛次	豊田・前林中 石川　諒一	豊田・美里中 成瀬　衣純
	西尾・平坂小 三浦　陽翔	西尾・平坂小 榊原　怜子	豊田・平井小 小野　花瑠	西尾・白浜小 櫻井　結心	幸田・豊坂小 山﨑　なな	豊田・岩倉小 川上　優空	豊田・梅坪台中 上村　真生	安城・安城北中 安藤　義隆	安城・東山中 天野　　凪
	西尾・矢田小 丸林　礼佳	西尾・平坂小 長坂　彩良	安城・安城中部小 市川　赤穂	蒲郡・西浦小 遠藤　栞菜	幸田・豊坂小 山﨑　ねね	安城・安城北部小 市川　桜子	安城・東山中 天野　　芽	安城・東山中 神谷　久輝	安城・東山中 後藤　紋瑳
	蒲郡・三谷東小 新開　彩乃	西尾・一色中部小 中津　颯人	安城・安城北部小 濵野　蒼太	蒲郡・西浦小 加藤　朱莉	蒲郡・竹島小 山本　寧音	安城・安城北部小 坂口　陽香	安城・安祥中 築山　結衣	安城・東山中 高木　裕美	西尾・西尾中 樅山　　幸

令和元年度

「個人研究助成」

～審査を終えて～

本法人では、教育振興の目的を達成するため、個人研究助成を行っています。

この度、平成28年度を研究1年次として、平成30年度までの3年間、着実に研究を推進され、提出された10名の先生方の論文の最終審査が行われました。どの論文も3年間の成果が見事にまとめられていました。このうち、3名の先生方の論文が特に優秀として選ばれました。ここでは、審査に当たられた高須亮平審査委員長の講評の概要とともに紹介いたします。

講　評

3年次個人研究の10点のどれも、目の前の子どものよさや足りなさ等を的確に捉え、子どもをよりよくしようと願い、それを具現すべく創造的、発展的に授業実践を試みたものばかりでした。

新学習指導要領の視点でもある「主体的・対話的で深い学び」に関わり、そのような内容に積極的に取り組む、まさに研究と呼ぶにふさわしいものばかりでした。3年間を1つのテーマで整合性をもって実践に取り組むことで研究の厚み感じさせるもの、授業記録や学習記録等の資料を基に客観的な分析により論の説得力を感じさせるものが多く見られました。

課題として、子どもの追究が教科等のねらいにさらに迫ることができるような手立てのあり方の追求が挙げられます。

◇ 3年次個人研究審査結果 ◇

最優秀賞

幸田町立幸田小学校

新鶴田道也

互いの考えの良さを認め合い、協働的に学ぶ子どもの育成
―中学校理科を見通した第5学年理科の授業を基盤として―

〔理科〕

優秀賞

刈谷市立富士松中学校

本谷　藍

目の前の事象を科学的に追究し、他者との関わり合いの中で考えを深める生徒の育成―第1学年「単元を通した身のまわりの音の追究活動」の実践を通して―

〔理科〕

安城市立今池小学校

齋藤みゆき

一人一人のよさを認め合い、表現の喜びを味わう子の育成
―小4「にじんで広がる色の世界」「今池タノシクナーレ」「かくれんぼ名人をさがせ」子どもの感じたことや考えたことを大切にするためのＩＣＴ活用を通して―

〔図画工作〕

令和元年度

教育図書出版助成

本法人では、教育図書の出版に対して助成を行うとともに、その内容についてお知らせし、教育の振興を図っています。応募対象は、三河の小・中学校教員の個人またはグループ・学校、教育関係団体や保護者の業績をまとめた教育図書で、経費の多くを公費等の援助を受けずに出版したものです。

今年度は、2点の応募があり、審査会において、それぞれ助成が決定されました。なお、令和2年度の応募要項は、愛知教育文化振興会のホームページに掲載されます。

算数科の深い学びを実践する

著者　岡崎市算数・数学教育研究部
B5判　254頁　2420円

岡崎市算数数学教育研究部では、新学習指導要領の視点である「主体的・対話的で深い学び」における算数科の「深い学び」について、全国に先駆けて研究成果を本書としてまとめました。

教科書等の内容、その背景にある指導のねらい・意図を探り、知識や技能と関わりのある数学的な見方・考え方を具体化しました。そして、それらをどのように働かせるか、系統性はどのようにつながっているか等も明らかにしました。

算数科の深い学びについて、授業を実践する上で大いに役立てられる書物です。

夢中になる子どもたち

著者　愛知教育大学附属特別支援学校
A5判　149頁　2000円

なかなか活動に向かわなかったり、活動が継続しなかったりする子。そんな子どもたちも夢中になる授業をつくりたいと模索した結果をまとめた本です。本書では、子どもが夢中になるポイントについて、6つ（日常の夢中な活動、見通し、教材・教具の工夫、反復、友達とのかかわり、教師とのかかわり）にまとめました。写真や絵とともに、の事例でわかりやすく紹介してあります。

特別支援学級だけでなく、通常の学級でも、授業づくりや学級づくりのヒントが詰まった1冊となっています。

「郡市教育・研究助成」を生かした

特色ある教育活動

本法人は、三河の教育の充実・向上を図るために、学校の現職研修や郡市の教育活動等に助成を行っています。

つなぎ合い、高め合う「教室コミュニティ」

幸田町立荻谷小学校
校長　岡本　智

荻谷小学校は、幸田町の中央部にあり、児童数300人余り。自慢は、樹齢100年を超える「ヤマモモ」の大木と全面芝生の運動場です。毎年9月には、全校児童で芝を刈り芝生アートを完成させます。

また、本校は、主体的・協同的な学びを主題として授業研究を積み重ねてきました。その基盤となるのが、互いの成長を認め合い、学ぶ喜びを感じられる「教室コミュニティ」だと考えます。では、幾つかの実践例を紹介します。

ハッピー　グリーン　プロジェクト①

今年も6年生が総合的な学習の時間に、7つのプロジェクトを展開しています。これは、チームごとで「みんなをハッピーな気持ちにする」活動を計画・運営するものです。全校レク、昼の放送でのクイズなどに加え、今年ならではの企画も見られます。「ハッピーグリーンの家」チームは、緑の妖精に扮した6年生が、休み時間に全校児童を招き、ゲーム大会や読み聞かせなどの活動を行っています。

ハッピー　グリーン　プロジェクト②

12月、「ハッピー給食」チームが行った、今年度2回目の縦割り給食は、普段の縦割り班ではなく、くじ引きで班を編成しました。初めての挑戦に6年生は、緊張感をもって当日に臨み、会場づくりや雰囲気を盛り上げるサイコロトークの準備など、それぞれの教室で独自の工夫が見られました。一方、なかなか会話がつながらない班もあり、全校の課題として、今後に引き継いでいきたいと思います。

ワンチームカード

2学期のまとめとして執行委員会から呼びかけられた「荻谷小、ワンチームカード」には、学校を一つにするための願いが込められており、「一人でいる子に話しかけた」など、チームの輪を広げるための点検項目が示されています。もっと「ハッピー」を目指して、今後も実践を積み重ねていきます。

本校では、こうしたプロジェクトの意義を、「相手や目的に応じて、自分にできることを考える力」を育み、「仲間と協同して課題を解決し、実践する力」を高めるものと考えています。また、成功体験を増やし、達成感を味わったり、自己肯定感を高めたりすることも期待できます。6年生は、試行錯誤の中で、やりがいを感じ、「もっとこうありたい」と自分自身を見つめ直すことができます。頑張った6年生にとって、下級生の笑顔が何よりのご褒美です。このチャレンジ精神と振り返りの力が、「社会をたくましく生き抜く力」につながるものと確信しています。

ハッピー グリーン プロジェクト①

文振だより

◇令和2年度版第Ⅰ期注文ありがとうございました。新規刊行物「英語の学習」については、100%に近い採用率となりました。お礼を申し上げます。実際に使ってみたご意見をお寄せいただければ幸いです。注文いただきました刊行物については、3月末までに配本の予定です。ただし、大改訂のため編集日程が遅れた学習類（国語・社会・算数・理科・英語）については、4月8日までの配送完了になりますので、ご承知おきください。

◇令和2年度版の刊行物の編集を終え、令和3年度版の編集に向けて動き出しています。2月7日には、編集委員長・関係部会長会を開催しました。令和2年度は、中学校版の大改訂の年になります。小学校版の大改訂の経験を生かしながら、さらに現場で使いやすい刊行物を目指していきます。

◇かきぞめコンクールの賞状（最優秀賞・優秀賞）も、絵画コンクールと同様に受賞作品のレプリカの入ったものにリニューアルしました。

申請書提出・刊行物注文締切

□個人研究助成（2年次・3年次）申請書提出／令和2年4月30日㈭
（1年次）申請書提出／令和2年6月12日㈮

◇第Ⅱ期刊行物注文締切／令和2年5月11日㈪～14日㈭

□郡市研究・団体研究助成・学校ボランティアグループ助成
申請書提出／令和2年5月11日㈪～22日㈮

会議の予定

○第1回文振郡市正副代表者会　4月17日㈮
○第1回文振郡市事務担当者会　4月24日㈮
○第1回編集委員長会　6月12日㈮

ネイチャーウォッチング

令和2年度のネイチャーウォッチングの計画が決まりました。少しでも多くの親子に参加していただけるようA、Bの2つの日程で実施することにしました。

対象　三河地区在住で、小学生とその保護者で希望する親子

応募期間　令和2年4月1日㈬～5月8日㈮

A日程　定員／30組

A1「めざせ　虫博士」 セミ、トンボ、チョウなどの昆虫採集体験
日時：6月28日㈰　9：30～12：00
場所：少年自然の家（岡崎市須渕町）

A2「里山の生き物ウォッチング」 秋の生物（虫、植物、鳥）の観察体験
日時：9月26日㈯　10：00～12：00
場所：東三河ふるさと公園（豊川市御油町）

A3「化石を発見しよう」 貝や広葉樹などの化石採集体験
日時：11月28日㈯　10：00～12：00
場所：野外教育センター前海岸（豊橋市伊古部町）

B日程　定員／30組

B1「川の生き物調べ」 水生昆虫や川魚などの生き物調査体験
日時：8月29日㈯　9：30～12：00
場所：少年自然の家（岡崎市須渕町）

B2「干潟の鳥ウォッチング」 シギ、チドリ、サギなどの野鳥観察体験
日時：10月17日㈯　10：00～12：00
場所：汐川干潟（田原市緑が浜）

B3「星空ウォッチング」 オリオン座、すばるなどの天体観測体験
日時：令和3年1月23日㈯　19：00～21：00
場所：少年自然の家（岡崎市須渕町）

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化　令和2年3月1日号　No.122
発行／公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868　岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
TEL 0564-51-4819
http://www.bunsin.org